

「実務経験のある教員等による授業科目」
のシラバス〔2025年度〕

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護の基本A		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期	
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。					
[目的・ねらい]					
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。					
・「介護とは何か」「介護の歴史」を知ることで、介護福祉士としての基礎的な知識を習得する。					
[内容の概要]					
・介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援など、介護実践の基礎となる知識を学ぶ。					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
・生活支援を行う介護福祉士の役割や専門性について説明することが出来る。					
・介護福祉士が行う支援の意義や目的を説明することが出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. オリエンテーション・介護福祉士とは					
2. 介護福祉を取り巻く状況①					
3. 介護福祉を取り巻く状況②					
4. 介護福祉を取り巻く状況③					
5. 介護福祉の歴史①					
6. 介護福祉の歴史②					
7. 介護福祉の歴史③					
8. 介護福祉の歴史④					
9. 介護福祉の歴史⑤					
10. 介護福祉の歴史⑥					
11. 介護福祉の歴史⑦					
12. 介護福祉の基本理念					
13. 尊厳を支える介護					
14. 自立を支える介護					
15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」第2版			前期末試験と授業点(提出物等)における総合評価		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護の基本B		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期	
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。					
[目的・ねらい]					
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。					
[内容の概要]					
・介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援など、介護実践の基礎となる知識を学ぶ。					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
・支援を必要とする人の生活を知り、生活を送る中で生じる生活障害について理解を深める。					
・介護福祉士として、利用者の状況に応じた介護の在り方について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. オリエンテーション					
2. 私たちの生活の理解①					
3. 私たちの生活の理解②					
4. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし①					
5. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし②					
6. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし③					
7. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし④					
8. 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解①					
9. 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解②					
10. 生活のしづらさの理解とその支援①					
11. 生活のしづらさの理解とその支援②					
12. 生活のしづらさの理解とその支援③					
13. 生活のしづらさの理解とその支援④					
14. 生活のしづらさの理解とその支援⑤					
15. まとめ・前期末試験について					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」第2版			前期末試験と授業点(提出物等)における総合評価		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護過程Ⅰ		担当者 廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 [授業の目的・ねらい] 「介護過程」の意義と展開方法について理解する。 [授業全体の内容の概要] 本人の望む生活を実現するために、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。ワークを中心に「物事を進める際の考え方」を見につける。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 介護過程の一連の流れについて説明できる。 ・ 介護過程の前提としての「ニーズを見る視点」を理解する。 ・ 情報収集の大切さを理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 「介護過程」の展開を学ぶ前に 2 「介護過程」の意義・目的 3 「介護過程」の全体像 4 「介護過程」とICF 5 「介護過程」の展開の理解① 6 「介護過程」の展開の理解② 7 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解① 8 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解② 9 「介護過程の理解」アセスメントとは 10 「介護過程の理解」情報収集を収集する際の留意点 11 「介護過程の理解」アセスメントの視点 12 意図的な情報収集とは 13 事例による情報収集① 14 事例による情報収集② 15 まとめ 試験について					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 小テスト、期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 社会の理解A		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。					
[授業の目的・ねらい]					
個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。					
[授業全体の内容の概要]					
生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度などについて学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
生活と社会のかかわりについて理解できる。地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方が理解できる。社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 オリエンテーション					
2 生活の基本機能、ライフスタイルの変化					
3 家族の機能と役割、社会・組織の機能と役割					
4 地域、地域社会、地域社会における生活支援					
5 地域福祉の発展					
6 地域共生社会、地域包括ケア					
7 社会保障の基本的な考え方					
8 日本の社会保障制度の発達					
9 日本の社会保障制度のしくみ①					
10 日本の社会保障制度のしくみ②					
11 日本の社会保障制度のしくみ③					
12 日本の社会保障制度のしくみ④					
13 現代社会と社会保障制度					
14 高齢者保健福祉の動向					
15 高齢者保健福祉に関連する法体系・まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 中央法規出版			・期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 医療的ケア I	担当者 小川輝子																																																						
種類 (講義・演習・実習)	回数 17回	時間数(単位数) 34時間(2単位)																																																						
		配当学年・時期 2学年 前期																																																						
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 [授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 医療的ケア実施に必要な基礎的知識を学ぶ。 根拠に基づき安全に医療的ケア(主に経管栄養)を行うための、基礎的知識・技術を学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解できる。 2. 「経管栄養」を安全に実施するための基本知識・実施手順を理解できる。 3. 医療的ケアが必要な利用者・家族の気持ちを理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内 容</th><th>授業方法・キーワード</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回</td><td><u>医療的ケア実施の基礎①</u></td><td>1) 医療的ケアとは 2) 医行為について 3) 医療倫理①</td></tr> <tr> <td>2回</td><td><u>医療的ケア実施の基礎②</u></td><td>1) 医療倫理②(GW) 2) 喀痰吸引等制度①</td></tr> <tr> <td>3回</td><td><u>医療的ケア実施の基礎③</u></td><td>1) 喀痰吸引等制度② 2) 医療的ケアと喀痰吸引等の背景</td></tr> <tr> <td>4回</td><td><u>医療的ケア実施の基礎④</u></td><td>2) その他の制度(確認・復習プリント)</td></tr> <tr> <td>5回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)①</u></td><td>消化器系のしくみとはたらき(確認プリント)</td></tr> <tr> <td>6回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)②</u></td><td>1) 消化・吸収とよくある消化器の症状 2) 経管栄養とは</td></tr> <tr> <td>7回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)③</u></td><td>1) 注入する内容に関する知識 2) 経管栄養実施上の留意点</td></tr> <tr> <td>8回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)④</u></td><td>子どもの経管栄養について</td></tr> <tr> <td>9回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑤</u></td><td>1) 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 2) 経管栄養に関係する感染と予防</td></tr> <tr> <td>10回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑥</u></td><td>経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認</td></tr> <tr> <td>11回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑦</u></td><td>急変・事故発生時の対応と事前対策</td></tr> <tr> <td>12回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑧</u></td><td>1) 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、 清潔の保持 2) 経管栄養の技術と留意点①</td></tr> <tr> <td>13回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑨</u></td><td>経管栄養の技術と留意点② 滴下速度の計算</td></tr> <tr> <td>14回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑩</u></td><td>経管栄養の技術と留意点③</td></tr> <tr> <td>15回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑪</u></td><td>経管栄養の技術と留意点④ 経管栄養に必要なケア、報告及び記録</td></tr> <tr> <td>16回</td><td><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑫</u></td><td>経管栄養の技術と留意点⑤</td></tr> <tr> <td>17回</td><td>高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」まとめ</td><td>確認テスト(主に経管栄養)</td></tr> </tbody> </table> [使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉全書 15 医療的ケア 中央法規出版 MINER VA 福祉資格テキスト 医療的ケア ミネルヴァ書房 2013 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 中央法規 2012 [単位認定の方法及び基準] 試験・授業態度・課題・出席状況の総合評価とする * 確認テストにおいては、総正解率が9割以上の者を合格とし、合格しなければ演習の授業に進めない(介護福祉法施行規則)			回	内 容	授業方法・キーワード	1回	<u>医療的ケア実施の基礎①</u>	1) 医療的ケアとは 2) 医行為について 3) 医療倫理①	2回	<u>医療的ケア実施の基礎②</u>	1) 医療倫理②(GW) 2) 喀痰吸引等制度①	3回	<u>医療的ケア実施の基礎③</u>	1) 喀痰吸引等制度② 2) 医療的ケアと喀痰吸引等の背景	4回	<u>医療的ケア実施の基礎④</u>	2) その他の制度(確認・復習プリント)	5回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)①</u>	消化器系のしくみとはたらき(確認プリント)	6回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)②</u>	1) 消化・吸収とよくある消化器の症状 2) 経管栄養とは	7回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)③</u>	1) 注入する内容に関する知識 2) 経管栄養実施上の留意点	8回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)④</u>	子どもの経管栄養について	9回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑤</u>	1) 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 2) 経管栄養に関係する感染と予防	10回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑥</u>	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認	11回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑦</u>	急変・事故発生時の対応と事前対策	12回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑧</u>	1) 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、 清潔の保持 2) 経管栄養の技術と留意点①	13回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑨</u>	経管栄養の技術と留意点② 滴下速度の計算	14回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑩</u>	経管栄養の技術と留意点③	15回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑪</u>	経管栄養の技術と留意点④ 経管栄養に必要なケア、報告及び記録	16回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑫</u>	経管栄養の技術と留意点⑤	17回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」まとめ	確認テスト(主に経管栄養)
回	内 容	授業方法・キーワード																																																						
1回	<u>医療的ケア実施の基礎①</u>	1) 医療的ケアとは 2) 医行為について 3) 医療倫理①																																																						
2回	<u>医療的ケア実施の基礎②</u>	1) 医療倫理②(GW) 2) 喀痰吸引等制度①																																																						
3回	<u>医療的ケア実施の基礎③</u>	1) 喀痰吸引等制度② 2) 医療的ケアと喀痰吸引等の背景																																																						
4回	<u>医療的ケア実施の基礎④</u>	2) その他の制度(確認・復習プリント)																																																						
5回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)①</u>	消化器系のしくみとはたらき(確認プリント)																																																						
6回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)②</u>	1) 消化・吸収とよくある消化器の症状 2) 経管栄養とは																																																						
7回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)③</u>	1) 注入する内容に関する知識 2) 経管栄養実施上の留意点																																																						
8回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)④</u>	子どもの経管栄養について																																																						
9回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑤</u>	1) 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 2) 経管栄養に関係する感染と予防																																																						
10回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑥</u>	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認																																																						
11回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑦</u>	急変・事故発生時の対応と事前対策																																																						
12回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑧</u>	1) 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、 清潔の保持 2) 経管栄養の技術と留意点①																																																						
13回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑨</u>	経管栄養の技術と留意点② 滴下速度の計算																																																						
14回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑩</u>	経管栄養の技術と留意点③																																																						
15回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑪</u>	経管栄養の技術と留意点④ 経管栄養に必要なケア、報告及び記録																																																						
16回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑫</u>	経管栄養の技術と留意点⑤																																																						
17回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」まとめ	確認テスト(主に経管栄養)																																																						

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 東洋医学臨床論 I		担当者 尾野 佳代																																																																				
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 6 0 回	時間数(単位数) 1 2 0 時間 (4 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期																																																																				
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院での勤務経験をもつ教員が、臨床経験をもとに各疾患についてわかりやすく解説を行う。 [目的・ねらい] 診察の結果をもとに鍼灸治療の適・不適を判断し、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てるための能力を養う。 [内容の概要] 臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対する西洋医学に基づく考え方と東洋医学に基づく考え方を、教科書に基づき配布資料を交えて学習する。 [修了時の達成課題（到達目標）] 西洋医学に基づく考え方と東洋医学に基づく考え方を総合的に理解し、鍼灸治療の適・不適を判断した上で、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てることができる。																																																																							
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table border="0"> <tbody> <tr> <td>1・2</td><td>治療総論</td><td>31・32</td><td>鼻閉・鼻汁</td></tr> <tr> <td>3・4</td><td>治療総論／肩こり</td><td>33・34</td><td>関節痛</td></tr> <tr> <td>5・6</td><td>肩こり／頭痛</td><td>35・36</td><td>関節痛／頸肩腕痛</td></tr> <tr> <td>7・8</td><td>頭痛</td><td>37・38</td><td>頸肩腕痛</td></tr> <tr> <td>9・10</td><td>頭痛／顔面痛</td><td>39・40</td><td>頸肩腕痛／上肢痛</td></tr> <tr> <td>11・12</td><td>顔面痛／歯痛</td><td>41・42</td><td>上肢痛</td></tr> <tr> <td>13・14</td><td>歯痛／眼精疲労</td><td>43・44</td><td>肩関節痛</td></tr> <tr> <td>15</td><td>中間試験</td><td>45・46</td><td>肩関節痛／腰痛</td></tr> <tr> <td>16・17</td><td>眼精疲労</td><td>47</td><td>中間試験</td></tr> <tr> <td>18・19</td><td>めまい</td><td>48・49</td><td>腰痛</td></tr> <tr> <td>20・21</td><td>めまい</td><td>50・51</td><td>腰痛／腰下肢痛</td></tr> <tr> <td>22・23</td><td>耳鳴り・難聴</td><td>52・53</td><td>腰下肢痛</td></tr> <tr> <td>24・25</td><td>耳鳴り・難聴／咳嗽と喀痰</td><td>54・55</td><td>下肢痛</td></tr> <tr> <td>26・27</td><td>咳嗽と喀痰</td><td>56・57</td><td>下肢痛／膝痛</td></tr> <tr> <td>28・29</td><td>呼吸困難</td><td>58・59</td><td>膝痛</td></tr> <tr> <td colspan="2">まとめ・前期末試験</td><td colspan="2">まとめ・後期末試験</td></tr> <tr> <td>30</td><td>試験解説／鼻閉・鼻汁</td><td>60</td><td>試験解説／歩行異常</td></tr> </tbody> </table>				1・2	治療総論	31・32	鼻閉・鼻汁	3・4	治療総論／肩こり	33・34	関節痛	5・6	肩こり／頭痛	35・36	関節痛／頸肩腕痛	7・8	頭痛	37・38	頸肩腕痛	9・10	頭痛／顔面痛	39・40	頸肩腕痛／上肢痛	11・12	顔面痛／歯痛	41・42	上肢痛	13・14	歯痛／眼精疲労	43・44	肩関節痛	15	中間試験	45・46	肩関節痛／腰痛	16・17	眼精疲労	47	中間試験	18・19	めまい	48・49	腰痛	20・21	めまい	50・51	腰痛／腰下肢痛	22・23	耳鳴り・難聴	52・53	腰下肢痛	24・25	耳鳴り・難聴／咳嗽と喀痰	54・55	下肢痛	26・27	咳嗽と喀痰	56・57	下肢痛／膝痛	28・29	呼吸困難	58・59	膝痛	まとめ・前期末試験		まとめ・後期末試験		30	試験解説／鼻閉・鼻汁	60	試験解説／歩行異常
1・2	治療総論	31・32	鼻閉・鼻汁																																																																				
3・4	治療総論／肩こり	33・34	関節痛																																																																				
5・6	肩こり／頭痛	35・36	関節痛／頸肩腕痛																																																																				
7・8	頭痛	37・38	頸肩腕痛																																																																				
9・10	頭痛／顔面痛	39・40	頸肩腕痛／上肢痛																																																																				
11・12	顔面痛／歯痛	41・42	上肢痛																																																																				
13・14	歯痛／眼精疲労	43・44	肩関節痛																																																																				
15	中間試験	45・46	肩関節痛／腰痛																																																																				
16・17	眼精疲労	47	中間試験																																																																				
18・19	めまい	48・49	腰痛																																																																				
20・21	めまい	50・51	腰痛／腰下肢痛																																																																				
22・23	耳鳴り・難聴	52・53	腰下肢痛																																																																				
24・25	耳鳴り・難聴／咳嗽と喀痰	54・55	下肢痛																																																																				
26・27	咳嗽と喀痰	56・57	下肢痛／膝痛																																																																				
28・29	呼吸困難	58・59	膝痛																																																																				
まとめ・前期末試験		まとめ・後期末試験																																																																					
30	試験解説／鼻閉・鼻汁	60	試験解説／歩行異常																																																																				
[使用テキスト・参考文献] 「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」南江堂 「臨床医学各論 第2版」医歯薬出版株式会社 「臨床医学総論 第2版」医歯薬出版株式会社		[単位認定の方法及び基準] 年4回の定期試験の平均点が60点以上で単位取得を認定する。（学生便覧参照）																																																																					

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 鍼灸学科		科目名 臨床医学各論Ⅰ		担当者 上垣内 敬司	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 6 0 回	時間数(単位数) 1 2 0 時間 (4 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院に勤務しており、臨床経験が豊富な教員が、東洋的な考え方を紹介しながら、各疾患についての説明を行う。					
[目的・ねらい]					
疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、性状、検査、治療及びその予後について基礎的な知識を習得し、また、主要疾患に関してはその病態生理と症状の発現に関して理解しながら、各疾患の病態メカニズムについてその知識を深める。					
[内容の概要]					
一般医学における各系統の疾患についての基本的な知識を習得する。					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
臨床家として必要最低限の知識の習得と病態の把握ができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]			3 1 糖尿病		
1 ガイダンス、消化器疾患（口腔）			3 2～3 3 その他の代謝性疾患		
2～4 消化器疾患（食道・胃）			3 4～3 6 循環器疾患（心不全、弁膜疾患）		
5～7 消化器疾患（腸疾患）			3 7 循環器疾患（不整脈、先天性心疾患）		
8～1 0 肝臓疾患			3 8～3 9 循環器疾患（冠動脈疾患）		
1 1 胆のう、胆道系疾患			4 0～4 1 循環器疾患（その他）		
1 2 膵臓疾患			4 2～4 3 血液疾患（貧血）		
1 3 呼吸器疾患（感染性）			4 4 血液疾患（白血病、出血性疾患）		
1 4～1 5 呼吸器疾患（閉塞性）			4 5 中間試験		
1 6 中間試験			4 6～4 8 膠原病		
1 7～1 9 呼吸器疾患（拘束性、その他）			4 9～5 3 神経疾患（脳血管障害、脳腫瘍など）		
2 0～2 2 腎臓疾患			5 4～5 5 神経疾患（変性疾患）		
2 3～2 4 膀胱・尿道・前立腺疾患			5 6 神経疾患（認知症）		
2 5～2 9 内分泌疾患（下垂体、甲状腺、副腎）			5 7～5 9 神経疾患（筋疾患、末梢神経疾患）		
前期期末試験			後期期末試験		
3 0 試験解説			6 0 試験解説		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
「臨床医学各論」 医道の日本社			筆記による試験（中間及び期末）を評価の対象とし、		
「STEP内科」 海馬書房			6 0 点以上取得したものを合格とし、単位取得とする。		
「病気がみえる」 メディックメディア					

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 社会はりきゅう学実習		担当者 尾野 龍一	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 3 学年 前期 後期	
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院での勤務経験をもち、現在も附属鍼灸院で臨床を行なっている教員が、臨床上よく遭遇する疾患について代表的な治療法を教授する。 [目的・ねらい] 現代社会における鍼灸治療の現状と課題を踏まえ、社会的ニーズの多様化に対応できる能力を修得する。 学臨床論」の教科書をベースに配布資料を交えて学習する。同時に、国家試験の過去問を解く。 [修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者ならびに婦人科・小児科に多い疾患の特性に応じた鍼灸治療を行うことができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容]		婦人科・小児科疾患に対する鍼灸治療		
高齢者に対する鍼灸治療		16 女性特有の症候		
1 頭皮鍼 パーキンソン病		17 月経異常		
2 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①		18 月経異常		
3 脳血管障害後遺症②		19 月経異常		
4 脳血管障害後遺症③		20 小児特有の症候		
5 刺針、施灸の練習		21 疳の虫		
6 高血圧		22 疳の虫／夜尿症		
7 試験練習		23 夜尿症		
8 試験練習		24 発熱		
9 実技試験		25 発熱		
10 お互いへの鍼灸治療		26 のぼせ		
11 糖尿病		27 のぼせ		
12 排尿障害		28 冷え		
13 お互いへの鍼灸治療		29 冷え		
14 関節リウマチ		後期末試験		
15 お互いへの鍼灸治療		30 まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
「はりきゅう実技<基礎編>」		実技試験で評価を行う。		
「スポーツ傷害のハリ療法」		実技試験 6 0 点以上の者を単位認定する。		
「鍼通電療法テクニック運動器系疾患へのアプローチ」				

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科		科目名 包帯固定学		担当者 柳楽 美作男	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。					
[目的・ねらい]					
実技を通じて柔道整復術の基本である包帯固定法を身につける。					
[内容の概要]					
軟性材料・硬性材料の一通りの扱いを修得する。また、教科書等には掲載されていないが、施術所等で使用している固定材料（弾性包帯等）の取り扱いも修得する。（各回「基本包帯法」内）					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
巻軸包帯による基本包帯法と、代表的な冠名包帯の習得を目標とする。また、基本包帯法を応用して身体各部位に適した固定と、硬性材料を併用した固定ができるようになることを目標とする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1 ガイダンス・固定とは		16 冠名包帯法まとめ			
2 軟性材料と硬性材料・良肢位		17 硬性材料について			
3 巻軸包帯の扱い		18 金属副子			
4 基本包帯法		19 金属副子			
5 基本包帯法		20 金属副子			
6 基本包帯法		21 厚紙副子			
7 基本包帯法		22 厚紙副子			
8 基本包帯法		23 すだれ副子			
9 基本包帯法		24 すだれ副子			
10 基本包帯法		25 ギプス包帯			
11 基本包帯法振り返り		26 ギプス包帯			
12 冠名包帯法		27 冠名包帯・硬性材料振り返り			
13 冠名包帯法		28 テーピング			
14 冠名包帯法		29 テーピング			
前期末試験		後期末試験			
15 前期まとめ・解説		30 まとめ/解説			
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学改訂第2版 南江堂			前・後期それぞれ授業回数の4/5以上出席し、実技・筆記試験結果により評価する。 いずれの試験も、前期末試験と後期末試験の合計120円（平均60点）以上で合格とする。 単位取得には実技・筆記試験のいずれも合格する必要がある。		

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技ⅡA		担当者 森山 嵩大
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60 時間 (2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。			
[目的・ねらい] ・ 下肢の軟部組織損傷についての評価法、治療法の理解			
[内容の概要] (柔道整復学・理論編P380～P405)			
1. 下肢の軟部組織損傷（股関節、大腿部、膝関節、下腿、足趾）			
2. 体幹の軟部組織損傷（頸部、胸・背部、腰部）			
[修了時の達成課題（到達目標）] ・ 他外傷または疾患との鑑別と応急処置の習得			
[授業の日程と各回のテーマ・内容]			
＜前期＞		＜後期＞	
1. 股関節の軟部組織損傷		1. 足関節の軟部組織損傷	
2. 股関節の軟部組織損傷		2. 足関節の軟部組織損傷	
3. 股関節の軟部組織損傷		3. 足関節の軟部組織損傷	
4. 大腿部の軟部組織損傷		4. 足趾の軟部組織損傷	
5. 大腿部の軟部組織損傷		5. 足趾の軟部組織損傷	
6. 膝関節の軟部組織損傷		6. 頸部の軟部組織損傷	
7. 膝関節の軟部組織損傷		7. 頸部の軟部組織損傷	
8. 膝関節の軟部組織損傷		8. 頸部の軟部組織損傷	
9. 膝関節の軟部組織損傷		9. 胸・背部の軟部組織損傷	
10. 膝関節の軟部組織損傷		10. 胸・背部の軟部組織損傷	
11. 膝関節の軟部組織損傷		11. 胸・背部の軟部組織損傷	
12. 下腿部の軟部組織損傷		12. 腰部の軟部組織損傷	
13. 下腿部の軟部組織損傷		13. 腰部の軟部組織損傷	
14. 下腿部の軟部組織損傷		14. 腰部の軟部組織損傷	
15. 試験解説		15. 試験解説	
[使用テキスト・参考文献] ・ 柔道整復学（理論編） ・ 柔道整復学（実技編）		[単位認定の方法及び基準] ・ 実技試験、筆記試験、授業態度等を総合的に判断し評価する。 (実技試験・筆記試験：60 点以上合格) ・ 授業時数の 4/5 以上 出席を必要とする。	

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科		科目名 臨床柔道整復学ⅠA		担当者 埤 義徳	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。					
[目的・ねらい]					
上肢（鎖骨・肩甲骨・鎖骨関節・肩関節・軟部組織）各部の外傷について正確に理解し、国家試験に向けた準備を行う。					
[内容の概要]					
座学では、理論、実技では、方法、適応を学ぶ。また、学習内容の現場実践のため、年度途中にフィールドワーク（学外実習）を行う場合がある。					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
学んだ項目について正確に説明できる。類似外傷との鑑別が適切にできる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1 範囲内解剖学復習		16 肩関節脱臼①			
2 鎖骨骨折①		17 肩関節脱臼②			
3 鎖骨骨折②		18 肩関節前方脱臼実技①			
4 鎖骨骨折実技①		19 肩関節前方脱臼実技②			
5 鎖骨骨折実技②		20 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）①			
6 上腕骨近位部骨折①		21 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）②			
7 上腕骨近位部骨折②		22 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）実技①			
8 上腕骨外科頸骨折実技		23 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）実技②			
9 胸鎖・肩鎖関節脱臼①		24 後期実技試験			
10 胸鎖・肩鎖関節脱臼②		25 スポーツ損傷			
11 肩鎖関節脱臼実技		26 不安定症			
12 前期実技試験		27 末梢神経障害（肩甲上神経・腋窩神経）			
13 肩甲骨骨折		28 その他の疾患			
14 まとめ		29 まとめ			
前期期末試験		後期期末試験			
15 試験解説		30 試験解説			
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
柔道整復学（理論編）改訂第7版 南江堂			試験の受験には出席率 4/5 以上を必要とする。		
柔道整復学（実技編）改訂第2版 南江堂			筆記試験は小テスト（50%）期末試験（50%）として 100 点満点で評価する。		
			実技試験（前期・後期）でそれぞれ 60 点以上を合格とする。通年で実技・筆記の両方が 60 点以上の者を単位修得とする。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科		科目名 総合演習ⅠA		担当者 岡 智宏	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。					
[目的・ねらい]					
本授業で扱う疾患については、柔道整復師が行う保存療法では後遺障害などを残存させる可能性が高いものが多い。よって、基礎理論習得は基より、柔道整復師による施術の適否の判断能力を身につけていくことも目標としたい。また、基礎的な考え方を含め、臨床現場および国家試験に対応できる知識・ポイントの習得も目的とする。					
[内容の概要]					
下肢の骨折は合併症や重症度の関係や、荷重関節として正確な整復が必要であることから、柔道整復施術所で初期対応として遭遇する可能性は少ないが、後療・リハビリ現場では柔道整復師が施術にあたることもあるため、各傷病の特徴に加え、そこでの注意点などについても述べていくこととする。					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
各傷病についての理解を深め、臨床に応用できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1. 骨盤骨骨折			16. 下腿骨近位部の骨折		
2. 骨盤骨骨折			17. 下腿骨近位部の骨折		
3. 骨盤骨骨折			18. 下腿骨幹部の骨折		
4. 大腿骨近位部の骨折			19. 下腿骨幹部の骨折		
5. 大腿骨近位部の骨折			20. 下腿骨幹部の骨折		
6. 大腿骨近位部の骨折			21. 下腿骨遠位部の骨折		
7. 大腿骨近位部の骨折			22. 下腿骨遠位部の骨折		
8. 大腿骨幹部の骨折			23. 下腿骨遠位部の骨折		
9. 大腿骨幹部の骨折			24. 足根骨部の骨折		
10. 大腿骨遠位部の骨折			25. 足根骨部の骨折		
11. 大腿骨遠位部の骨折			26. 足根骨の骨折		
12. 大腿骨遠位部の骨折			27. 中足骨の骨折		
13. 膝蓋骨骨折			28. 中足骨の骨折		
14. 膝蓋骨骨折			29. 趾骨の骨折		
15. 試験解説			30. 試験の解説		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
柔道整復学・理論偏 改訂第7版 南江堂			・出席 4/5 以上を必要とする。		
柔道整復学・実技偏 改訂第2版 南江堂			・筆記試験の評価は、前期と後期の評価を総合して評価する。合計 120 点以上（平均 60 点以上）で単位認定とする。		

2025年度授業概要

必修

学科名 柔整学科		科目名 臨床柔道整復学演習Ⅱ		担当者 太田 浩之	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30 回	時間数(単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 3 学年 前期 後期	
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。					
[目的・ねらい]					
柔道整復師の教育では、治療所での施術に必要な技術と知識の習得が重要となる。					
臨床柔道整復学演習Ⅱでは、患者への的確な指導や施術に直結する基本的な医用画像の知識を理解し解釈する能力を身に付ける事を目的とする。					
[内容の概要]					
医用画像の観察					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
医用画像の基礎知識習得					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
<前期>			<後期>		
1. 画像の種類（胸部レントゲン画像）			16. 国試対策		
2. 画像の種類（胸部レントゲン画像・心臓）			17. 国試対策		
3. 画像の種類（胸部レントゲン画像・肺）			18. 国試対策		
4. 画像の種類（打診・気胸・肋骨骨折）			19. 国試対策		
5. 画像の種類（胸郭の変形・肋骨骨折）			20. 国試対策		
6. 画像の種類（気胸・無気肺・人体の区分：腹部）			21. 国試対策		
7. 画像の種類（狭心症・心筋梗塞・心不全）			22. 国試対策		
8. XP の基礎知識・肩関節			23. 国試対策		
9. XP の基礎知識・肩関節・エコー観察			24. 国試対策		
10. XP の基礎知識・肘関節			25. 国試対策像		
11. XP の基礎知識・肘関節			26. 国試対策像		
12.予備			27. 国試対策		
13.予備			28. 予備		
14.予備			29. 予備		
15. 試験解説			30. 試験解説		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
・ 施術の適応と医用画像の理解			・ 試験、授業態度等を総合的に判断し評価する。		
・ 柔道整復学・理論編			(実技試験：60 点以上合格)		
・ 整形外科学			・ 授業時数の 4/5 以上 出席を必要とする。		
・ 一般臨床医学					

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科予防処置実技実習Ⅰ		担当者 末永 由美
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 3 6 回	時間数(単位数) 7 2 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。			
歯科医院での10年以上の臨床経験があり、多くの臨床経験から得た知識技術の中で、基礎的な知識・技術の習得を目的とし教育を行っている。			
[目的・ねらい]			
歯科衛生士が行うことのできる歯科予防処置法の内容を理解し、器具の正しい把持法、基本的な技術・術式を身に付け、これからの実践で使える技術の基盤作りを目的とする。			
さらに、患者とのコミュニケーションを円滑にする大切さを理解することを目標とする。			
[内容の概要]			
歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。			
[修了時の達成課題（到達目標）]			
臨床の場で実際に患者さんに対して“ 患者さんのために” 自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。			
また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容]		15～16 演習【実習室】	
1 実技オリエンテーション【教室・AB合同】	17 前期末試験		
2 ピンセット・ミラーの取り扱い方【教室・AB合同】	18 試験解説【教室・AB合同】		
3 ファントムの取り扱い・ポジション【実習室】	19 グレーシーキュレットスケーラー（構造、特徴）		
4 基本の姿勢【実習室】	【教室・AB合同】		
5 シックルスケーラー（構造、特徴）	20 グレーシーキュレットスケーラーの把持法・固定【実習室】		
【教室・AB合同】	21 0度挿入【実習室】		
6 スケーラーの把持法・固定【教室・AB合同】	22～23 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】		
7 スケーラーの把持法・固定【実習室】	24 フッ化物の応用、後期試験について【3F実習室、AB合同】		
8～12 シックルスケーラー操作方法【実習室】	25～26 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】		
13 シックルスケーラーシャープニング	27～28 齲蝕活動性試験【3F実習室・AB合同】		
【教室・AB合同】	29～34 グレーシーキュレットスケーラー操作演習【実習室】		
14 シャープニング復習・前期末試験について	35 後期期末試験		
【教室・AB合同】	36 試験解説【教室・AB合同】		
[使用テキスト・参考文献]			
歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論			
[単位認定の方法及び基準]			
期末試験、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。60点に満たない者は、再試験を行う。			
再試験は、再試験のみを評価する。			
実習時間外に練習を行い基本的な技術を身に付けるように努力すること。			
技術が著しく劣っている者には、2年生で行う相互実習に参加できない場合がある。			

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科予防処置実技実習Ⅱ	担当者 末永 由美	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 18 回	時間数(単位数) 36 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。 歯科医院での10年以上の臨床経験があり、臨床経験をもとに実際の臨床症例にあわせた処置方法や対応について教育を行っている。 [目的・ねらい] 歯周組織の病的変化を見逃さないために、健康像を十分に理解し、常に人が健康でいられる状態を保つ事が出来るようになる。またさらに、歯周治療の流れを理解し、応用力を身に付け、患者とのコミュニケーションを円滑にすることを目標とする。 [内容の概要] 歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。 [修了時の達成課題（到達目標）] 臨床の場で実際に患者さんに対して“患者さんのために”自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。 また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 口腔内診査【ファントム側】 2～3 口腔内診査〈相互実習〉【チェア側】 4 チェックテスト説明、期末試験説明【教室】 5 パワースケーラー・手用スケーラー【ファントム側】 6～8 パワースケーラー、手用スケーラー〈相互実習〉 【チェア側】 9 チェックテスト		10 歯面研磨【ファントム側】 11 グレーシーキュレットスケーラー シャープニング 【教室、AB合同】 12～13 グレーシーキュレットスケーラー シャープニング 【ファントム側】 14 歯面清掃【ファントム側】 15～16 演習 【ファントム側】 17 期末試験（登院前試験） 18 フィードバック	
[使用テキスト・参考文献] 歯科予防処置論・歯科保健指導論		[単位認定の方法及び基準] 期末試験、チェックテスト、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。 チェックテストが合格出来ていない場合は、期末試験を受験する事が出来ない。 期末試験は総合評価で60点以下の場合は再試験を行う。 再試験は、再試験のみを評価の対象とする。 技術向上の為に実習授業時間外にも練習を行うこと。 技術が著しく劣っている、安全に実習を行えない、感染対策が出来ていないと判断した者は、相互実習に参加できない。	

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保健指導実技実習Ⅰ		担当者 植松 汐美																			
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 18回	時間数(単位数) 36時間 (1単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																		
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。 歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。 [目的・ねらい] 口腔清掃指導を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。 [内容の概要] 歯・口腔の清掃に関する清掃用具の特徴と操作方法、歯磨剤、洗口剤、歯垢染色剤の特徴と使用法 口腔内の観察、口腔清掃状態の評価 [修了時の達成課題（到達目標）] 口腔清掃用具などの種類について説明ができる。歯磨剤とフッ化物配合歯磨剤の特徴について説明ができる。口腔清掃法について説明、実施ができる。口腔内の観察ができる。																							
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 口腔清掃用具Ⅰ</td><td>10 口腔清掃状態に関する指標Ⅰ</td></tr><tr><td>2 口腔清掃用具Ⅱ</td><td>11 口腔清掃状態に関する指標Ⅱ</td></tr><tr><td>3 化学的清掃法Ⅰ</td><td>12 口腔清掃実習Ⅰ</td></tr><tr><td>4 化学的清掃法Ⅱ</td><td>13 口腔清掃実習Ⅱ</td></tr><tr><td>5 口腔清掃補助用具Ⅰ</td><td>14 口腔清掃実習Ⅲ</td></tr><tr><td>6 口腔清掃補助用具Ⅱ</td><td>15 まとめ</td></tr><tr><td>7 口腔清掃方法（発表）</td><td>16 補助用具チェックテスト</td></tr><tr><td>8 口腔清掃方法（フィードバック）</td><td>17 期末実技試験</td></tr><tr><td>9 歯垢染色法</td><td>18 解説（AB合同）</td></tr></table>						1 口腔清掃用具Ⅰ	10 口腔清掃状態に関する指標Ⅰ	2 口腔清掃用具Ⅱ	11 口腔清掃状態に関する指標Ⅱ	3 化学的清掃法Ⅰ	12 口腔清掃実習Ⅰ	4 化学的清掃法Ⅱ	13 口腔清掃実習Ⅱ	5 口腔清掃補助用具Ⅰ	14 口腔清掃実習Ⅲ	6 口腔清掃補助用具Ⅱ	15 まとめ	7 口腔清掃方法（発表）	16 補助用具チェックテスト	8 口腔清掃方法（フィードバック）	17 期末実技試験	9 歯垢染色法	18 解説（AB合同）
1 口腔清掃用具Ⅰ	10 口腔清掃状態に関する指標Ⅰ																						
2 口腔清掃用具Ⅱ	11 口腔清掃状態に関する指標Ⅱ																						
3 化学的清掃法Ⅰ	12 口腔清掃実習Ⅰ																						
4 化学的清掃法Ⅱ	13 口腔清掃実習Ⅱ																						
5 口腔清掃補助用具Ⅰ	14 口腔清掃実習Ⅲ																						
6 口腔清掃補助用具Ⅱ	15 まとめ																						
7 口腔清掃方法（発表）	16 補助用具チェックテスト																						
8 口腔清掃方法（フィードバック）	17 期末実技試験																						
9 歯垢染色法	18 解説（AB合同）																						
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版 （医歯薬出版）			[単位認定の方法及び基準] 授業態度、出席状況、実習・提出物・課題への取り組みの姿勢、各テストおよび期末実技試験の結果等により総合評価を行う。 期末試験が60点未満の場合は、再試験を行う。 期末試験は複数教員で評価を行うこととする。																				

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保健指導実技実習Ⅱ		担当者 植松 汐美	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 8 回	時間数(単位数) 3 6 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。					
歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。					
[目的・ねらい]					
1年次に学んだことをもとに歯科衛生士活動の意義を理解し、様々なライフステージまたは症例に応じた保健指導を行えることを目的とする。また、個別・集団指導の基本的な技法を習得する。					
[内容の概要]					
口腔清掃補助用具について、義歯関連清掃用具について、 口腔清掃指導（リスク、ライフステージ別）					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
ライフステージや症例に応じた保健指導ができる。 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1 オリエンテーション、1年次の復習					
2 口腔状況に応じた指導法Ⅰ					
3 口腔状況に応じた指導法Ⅱ					
4 口腔清掃法実技Ⅰ					
5 口腔清掃法実技Ⅱ					
6 口腔清掃法実技Ⅲ					
7 義歯関連（ＡＢ合同）					
8 セミナー（ＡＢ合同）					
9 チェックテスト（口頭試問）					
10 登院前試験について（課題の説明、ＡＢ合同）					
11 ライフステージ別の口腔清掃指導					
12 禁煙指導（ＡＢ合同）					
13 摂食・嚥下Ⅰ					
14 摂食・嚥下Ⅱ					
15 パワーポイント発表Ⅰ					
16 パワーポイント発表Ⅱ					
17 まとめ（ＡＢ合同）					
18 期末試験（登院前試験）					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 保健生態学（医歯薬出版）			出席状況、授業態度、身だしなみ、提出物、チェックテスト、発表、期末試験により総合評価を行う。 チェックテストを受験していない場合は、期末試験を受験することが出来ないとする。 期末試験で 60 点未満の場合は、再試験を行う。 期末試験は複数教員で評価を行うこととする。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科診療補助実技実習Ⅰ		担当者 廣瀬 桃子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 8 回	時間数(単位数) 3 6 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期	
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。					
歯科医院での臨床経験を持ち、豊富な臨床経験から臨床症例を用い、技術や知識のみでなく問題解決能力を育成する教育を行っている。					
[目的・ねらい]					
歯科診療で頻繁に使用する歯科材料を用いて実技実習を行い、各種材料の知識と操作手順を理解する。実際の歯科診療の実際を把握して、臨床現場に即した歯科診療の補助の技術の基礎を身につける。また、臨床現場に求められる身だしなみやマナーを理解し実践できるようになる。					
[内容の概要]					
実際の歯科材料を用いて基本操作法を習得する。					
材料の特徴や器具の用途も併せて学習する。					
〔修了時の達成課題（到達目標）〕					
歯科用セメントの練和ができる。					
歯科用印象材の少量練和ができる。					
臨床現場に必要な身だしなみ・マナーの重要性が自身で理解できる。					
実技実習室の使用方法・清掃の仕方について理解し、正しく使用することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1 オリエンテーション・身だしなみチェック 10. 連合印象Ⅱ					
2 印象材Ⅰ					

	満の場合は再試験を必ず受験すること。 実技試験後、個別にフィードバックを行う。
--	--

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科診療補助実技実習Ⅱ		担当者 森 安曇																																									
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 5 4 回	時間数(単位数) 1 0 8時間 (3単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期																																									
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。 歯科医院での20年以上の臨床経験があり、臨床に必要な歯科診療補助に必要な技術・知識の習得とともに、チーム医療のスタッフとして専門的な立場から行動できるよう教育を行っている。 [目的・ねらい] 臨床実習に向けて歯科衛生士として必要な知識、技術を高める。今まで学んだことを総合的に考え、自らの行動をマネジメントできる段取り力をみにつけることを目標とする。また、コミュニケーション能力の充実を図る。 [内容の概要] 臨床実習に向けてより具体的な歯科診療補助について知識、技術を高めるために、実技実習を行う。 ロールプレイを通し、歯科医療現場で自主的に行動することが出来るよう実技実習を行う。授業の中でチェックテストを行うことで到達度を図る。 [修了時の達成課題（到達目標）] 症例に応じた手順、器具や器材の準備ができる。 印象材やセメントが適切な状態で練和できる。 治療内容を理解し、器具の名前や使用方法が説明できる。																																													
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>23～26</td><td>歯科治療時に使用される器具・器材</td></tr><tr><td>2</td><td>1年次の復習</td><td>27～36</td><td>器具のセッティング</td></tr><tr><td>3</td><td>バキュームテクニック</td><td>37～49</td><td>演習</td></tr><tr><td>4</td><td>歯間分離・隔壁法</td><td>50～53</td><td>バキュームセミナー（予定）</td></tr><tr><td>5～6</td><td>成形歯冠修復</td><td>54</td><td>期末試験（登院前試験）</td></tr><tr><td>7～11</td><td>テンポラリークラウン</td><td></td><td></td></tr><tr><td>12～13</td><td>ラバーダム防湿</td><td></td><td></td></tr><tr><td>14</td><td>印象採得（ファントム）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>15～20</td><td>スタディーモデル</td><td></td><td></td></tr><tr><td>21～22</td><td>スタディーモデル（トリミング）</td><td></td><td></td></tr></table>						1	オリエンテーション	23～26	歯科治療時に使用される器具・器材	2	1年次の復習	27～36	器具のセッティング	3	バキュームテクニック	37～49	演習	4	歯間分離・隔壁法	50～53	バキュームセミナー（予定）	5～6	成形歯冠修復	54	期末試験（登院前試験）	7～11	テンポラリークラウン			12～13	ラバーダム防湿			14	印象採得（ファントム）			15～20	スタディーモデル			21～22	スタディーモデル（トリミング）		
1	オリエンテーション	23～26	歯科治療時に使用される器具・器材																																										
2	1年次の復習	27～36	器具のセッティング																																										
3	バキュームテクニック	37～49	演習																																										
4	歯間分離・隔壁法	50～53	バキュームセミナー（予定）																																										
5～6	成形歯冠修復	54	期末試験（登院前試験）																																										
7～11	テンポラリークラウン																																												
12～13	ラバーダム防湿																																												
14	印象採得（ファントム）																																												
15～20	スタディーモデル																																												
21～22	スタディーモデル（トリミング）																																												
[使用 テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版			[単位認定の方法及び基準] 期末試験、チェックテスト、授業態度で総合的に評価する。期末試験は各項目すべてで 60%以上の点数が無い場合は単位を与えない。欠席、早退、私語等授業態度が不良な場合や身だしなみが整えられていない場合は、減点する。																																										